

あそびはらっぱものがたり

すとうあさえ

「あそびはらっぱ」は駒場幼稚園の課外活動の一つとして一九九六年四月からスタートしました。毎週木曜日二時～四時、現在のメンバーは年中、年長の子どもたち二十三人と大人スタッフ三人。「エデュテイメント (education+entertainment)」をテーマに、子どもたちにも面白く、私たち大人にも楽しい活動⇨遊びを毎回、元気に提案しています。今回は、九六年春のあそびはらっぱの様子をピックアップしてレポートしました。

*

目黒区にある駒場幼稚園。土の園庭に大きなけやきがどおんと一本。優しく風に吹かれながら、子どもたちと私たちを見守っていてくれる。いつもの所
でいつものように。

では、あそびはらっぱものがたりのはじまり、はじまり。

羊のサリーちゃん登場

——ブレあそびはらっぱ

四月。園庭に一台のトラックが到着。メヘヘへの声。来た来た、羊さんが来た。亀、うさぎ、モルモット、ヒヨコ、ヤギも一緒にやって来た。今日は幼稚園の子どもたちみんなと、羊の毛刈りを見ようという日。登園してくる子どもたちは、荷台から聞こえる鳴き声と動物たちが醸し出す臭いで、すでに興奮状態に突入している。

まずは、福田牧場のおじさんから動物たちのお話を聞いてから、順番に柵の中に入って、動物たちを抱っこ。小さな手のひらにすっぽりはまっているふわふわのひよこ、身体をコチコチにして少しも動かずにうさぎをひざの上のせて、顔だけ笑っている



▲みんなで記念撮影 パチ！ 右端にサリーちゃん
最後列の男性が福井氏、その右が筆者、左が千春さん

子、それぞれに可愛い。

羊さんの名前はサリー。毛でモクモクしているサリーちゃんと、やぎを交互に見ていた男の子が自信たっぷりと言った。「ひつじさんとやぎさんのおしりの大きさがうんだよ。ひつじさんのほうがでかいよ」と。ほう、なるほど。見る所がちがうね」と私も、交互に見て確認。

サリーちゃんに触ってみた。羊脂のせいでシトツとしている。ゴミやフンのデコレーション付きで、なかなかの臭い。あそびはらっぱでは、夏にサリーちゃんの毛を洗って、すいて、フェルトにする予定だが、果たしてきれいに出来るのかしらとちょっと不安になる。

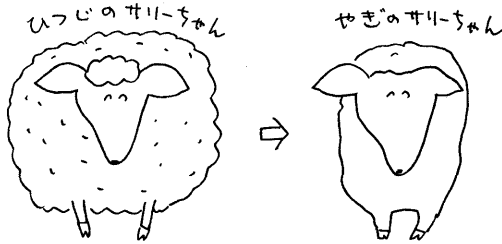
いよいよ、毛刈りの始まり。

サリーちゃんは、福田さんに連れられて大きなビニールシートの中央に登場。回りの子どもたち、お母さん、先生方がぐるりと囲む。サリーちゃんは、



▲毛刈り直後、先を争って触る子どもたち

平常心を失って、バタバタ暴れ出す。福田さんは、慣れたもので、サリーちゃんをボタンと組み伏せて、バリカンで毛を刈り出した。観客の「まあ、血が……」「かわいそうに……」という同情の声の中、おしっこ、うんこもしっかりしたサリーちゃん。毛刈りは三分で終了。「こわあい」と言って私の手を握っていた女の子を始め、一様に子どもたちの目は見開かれ、まさにびっくり状態だっ



たが、刈ったばかりの毛をみんなで触る段になると、先を争って触ろうとする。今までの緊張がふわっととけたように。

福田さんから、毛刈りは羊さんにとって気持ちいいこと、また、新しい毛が生えてくることを教えてもらって、みんなひと安心。さよならの前に、やけにさっぱりしたサリーちゃんと記念撮影、パチッ。

余談ですが今回、私は一つ発見したことがある――「羊は、丸裸になったら、やぎになる！」のです。

空とぶ新聞紙

初めてのあそびはらっぱ。子どもたちは「なにやるんだらう」という感じで地下のアトリエに集まってきた。まずは、アトリエに敷いたゴザの上にまあるく座って「はじめまして」のご挨拶。

「空とぶ新聞紙！」とスタッフの一人、＼森の中＼大好き人間の千春さんのファンファーレを合図に子

どもたちは新聞紙を飛ばす。千春さんは、絵の具遊びをするために、床に新聞紙を敷き詰めたかっただけなのに、この一言で子どもたちのイメージが明確になったようだ。ひとしきり飛ばし終えると、今度はやぶって、やぶって、ビリビリビリビリ。丸めて丸めて、クチャクチャクチャクチャ。床に落ちた新聞紙の上に這いつくばってニョロニョロニョロ。すごいなあ、子どもたちのエネルギー！

千春さん、千恵さんと私の三人は顔を見合わせてしばし啞然。でも、なぜか、三人とも目が笑っている。「それ！」、私たちもひとしきり新聞紙と戯れたあと、やっと、大きな紙と青、赤、黄色の絵の具が登場。子どもたちは、なんて切り替えが速いのでしょうか。新聞紙のことは、どこへやら。指、手の平全部に絵の具をべったりつけて、紙になすりつけている、いえ、こすりつけている、いえ、模様を描いている……？ とにかくニッチャニッチャ混ぜながら、

ら、絵の具の感触、そして「青と黄色で……ミドリ！」と色の変化を楽しんでいる。「赤くださあい！」「はいい」「黄色ちょうだあい！」「はいい」。絵の具はあつというまに売り切れ。子どもたちの足や顔、手がカラフルになって、なんともいい感じに出来上がっている。

そろそろお片付け。千春さんの「ぞうきんマンだよ」の一声がまたまた、子どもたちのイメージを明確にしたようで、新聞紙を丸めてぞうきん代わりにごしごし床を拭き始めた。

かくして、あそびはらっぱは「新聞紙と絵の具まみれ」の中で始まった。

雨・雨・雨のあそびはらっぱ

雨女はだれ？と言いたくなるほど、五月は雨。「きょうは晴れてよかったね」と喜んでいると、ちょうど二時に雨が降り始めるという具合。

晴れたら種時きのつもりが、ホールで段ボールを使って迷路遊びをしようということになった。迷路遊びをイメージしやすいようにと、千春さんが段ボールでトンネルを作り始める。すると、男の子たちが、やる気満々でやってきて、段ボールの中に入る人、外でまわす人に別れてぐるぐる段ボールを回し始める。コーヒーカップみたい。乗っている人たちは、お花が一齐に開いたようにチカチカ笑っている。ただ、ぐるぐる回るだけ。ぐるぐるぐる。それが楽しい。

私は、ホールの段差にべちゃんこにしたボール箱を斜めにセットしてみた。そのとたん、すういっと一人滑り始めた。私もトライ。しかし、体重のせいとか、いえ、せいで、厚い段ボール紙がふにやりとなくなってしまった。気をとりなおしてもっと厚くする。子どもたちは、すべり台を目ざとく見つけて次々と滑り下りる。スイツ、スイツ、スウィツ。何

度も繰り返す。今日は迷路遊びのつもりだったけれど、予定は未定。好きなように段ボールと戯れる、これが一番と、三人の大人たちは納得。遊びはどんどん発展した。

段ボールでお店のカウンターが出来る。ホールの中央につり堀が出現。魚を釣ってくる人、それをお店で売る人、買う人。私は造幣局。ひたすらお金を作る。どんどん作る。もう、インフレ状態に突入。可愛い家も建って、隣には「犬ポチ」の家もこしらえてある。中には、犬ポチになりきった男の子がお座りをしている。「お手」というとちゃんと「お手」をする。散歩にも連れていってもらっている。ホールという一つの場所のあちらこちらで子どもたちも大人も大きい固まり、小さな固まり、あるいは一人でそれぞれに遊んでいる。いつの頃だったか草と木と虫と鳥と風と子どもしかいなかった、はらっぱの光景とどこか似ているような、そんな気が

した。みんな、同じ空気を共有している。

遊びは強制されるものではなく、面白ければ遊びたくなるし、遊び続けたいくなる。そのことを実感して段ボールの巻は、楽しく幕。

風と布と色と子どもたち

あそびはらっぱ初めての快晴！

園庭に、青い大きなビニールシートを敷く。そこにホースで水を流す。子どもたちは、水が大好き。

キャーキャーワアワア。

服を脱ぎ始める子、裸足になる子、「あたし、はだしになれない」と言う子、ここでも、いろいろ。

「はだしにならなくてもいいよ」と答えると、ほっとした様子。

さて、今日のアそびはらっぱは、水遊びではなく、絵の具で模様を描く予定。

ビニールシートを丸ごとパレットにしようと私た

ちは考えたけど、水遊びにすっかりはまってしまうような勢いを見て、急遽いくつかのバケツに絵の具をとくことにした。

並行して、園庭の小さな木の間にシートを二枚つ

なぎ始める

と、子どもた

ちは、その布

と布のつなぎ

目の隙間から

出たり入った

りし始める。

手の平でばた

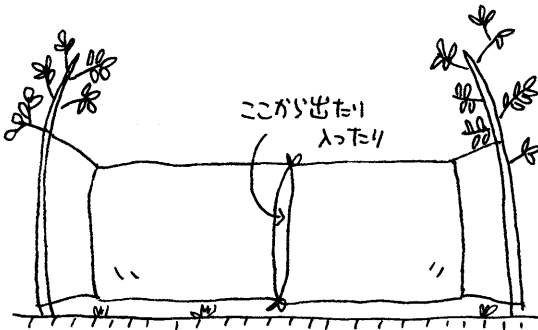
ばた布をたた

いて、風で膨

らんでいる布

と遊んでい

る。



まず、私たちが、バケツの中の絵の具にハケを浸して、ふによふによふによと端から端まで線を描く。かすれている所なんか、いい感じ。

「えっ、やっていいの？」と聞く子。すぐやり始める子。少し離れて見ている子。

そして、一人一人好きなように布に色を付け始めた。プリンカップに絵の具を入れて、そのままジャットと流したり、ローラーで同じ所を何度もゴシゴシこすったり、手の平をバケツに入れて絵の具を付けてそのまま、布にベタベタしたり。

なんて、すてきな色のカーテン……とみとれていたら、「キャー」という声とともに、突然ドサツと地面に落下！ 急いで元どおりに張ると、布は土まみれ。

ところが、子どもたちは、汚れた所に、さらに絵の具をバシバシ流して土をきれいに落としてしまった。少しも慌てることなく。

風と布と色と子どもたちの共同作品。うまく描こうなんて思わない。心の弾むままに出来上がったステキな模様。

布は、乾かすために、しばらく園庭にそのままにしておいた。風にゆうらり揺られて、おかあさんと帰っていく子どもたちにさようならをしているみたい、だった。

因に、この布は、日除け、幕、家の屋根と、あそびはらっぱで酷使されている。

*

季節は流れ、けやきの葉の色、咲く花、出会う虫たちの顔ぶれも変わっていく。そして、あそびはらっぱも、しなやかに、変幻自在に続いてゆく。

春から夏へ……。

(幼年童話作家)